

「ゆめ旅KAIGO！フォーラムVol.10」開催

ゆめ旅KAIGO!!フォーラム実行委員会

〒120-0038 東京都足立区千住橋戸町12-1-701

助成事業の概要

本事業は、第10回記念フォーラムとして「『できない』を『できる』に。～認知症・障害をこえて『できる』をひろげる場づくり～」をテーマに開催した。認知症や障害の有無にかかわらず、一人ひとりの力や役割を引き出す地域・支援のあり方を共有し、多様な立場の参加者が学び合い、つながる機会を設けることを目的とした。

開催日：2026年2月7日（土）

会場：Zoom ウェビナーによるオンライン開催
約40名の参加を得た。

当日は、主催者挨拶と趣旨説明の後、町亞聖氏をファシリテーターに迎え、平本ファミリー（グッドウィルスマイル合同会社）による山梨県大月市での耕作放棄地のファームづくり、社会参加型のデイサービスの開設と実践の紹介、パラリンピック銀メダリスト馬島誠氏によるスタジオトーク、高知県からのゆめ旅レポート、千葉商科大学学生OBOGを中心としたこれまでの総括的な活動報告という構成で実施した。第10回の節目にふさわしく、地域・世代・立場を越えた実践を多角的に共有する内容とした。

事業の成果

本事業の成果は、認知症や障害のある人を「支援を受ける側」として固定的に捉えるのではなく、一人ひとりが地域の中で役割や力を発揮できる主体として捉え直す視点を、参加者間で具体的に共有できた点にある。

当日のフォーラムでは、平本ファミリーが、山梨県大月市における農を基盤とした地域の居場所づくりや、認知症のある人、高齢者、障害のある人などが自然に集い、それぞれの形で（就労など働く場面含む）関われる実践を紹介した。この報告により、参加者は、制度や属性で区分するのではなく、その人の持つ力や意欲を地域の中でどう活かすかという視点の重要性を具体的に学ぶことができた。

また、馬島誠氏は、パラリンピアンとしての経験や講演活動に加え、障害者雇用の現状を紹介し、障害のある人を含む多様な働き方の実現に向けた取組について語った。馬島氏の発信は、障害の有無にかかわらず、本人の可能性や挑戦を社会の側がどう支えるかという課題を、参加者に強く印象づけるものとなった。

さらに、高知からのゆめ旅レポートや、千葉商科大学関係者による活動報告を通じて、地域や世代が異なっても、「誰もが役割を持てる社会を目指す」という共通の方向性があることが示された。これにより、参加者は各地の実践を自地域の課題と重ね合わせながら受け止めることができ、分野横断的な学びとネットワーク形成の契機となった。

第10回という節目において、これまで続けてきたフォーラムの意義を改めて確認するとともに、介護、障害福祉、地域共生、多世代交流を横断する実践の広がりを可視化できたことは、大きな成果であった。本事業は、参加者に対し、「できないを支える」だけでなく、「できるをひろげる」支援と地域づくりのあり方を考える機会を提

供できた。

や人的ネットワークを今後の企画・広報にも反映させ、「だれもが自由な旅」「だれもが役割を持てる社会」という理念の発信を継続していきたい。

■ 成果の広報・公表

開催にあたっては、告知チラシを作成し、ゆめ旅KAIGO！の関係者ネットワーク、SNS、申込フォーム等を通じて周知を行った。チラシには、第10回記念開催であること、開催テーマ、登壇者、申込方法、主催・協力・助成事業名等を明記し、全国から参加しやすいオンライン形式であることを明確に打ち出した。

また、当日の構成についても、開会挨拶、テーマ紹介、ゲストトーク、各地からのゆめ旅レポート、学生世代の活動報告といった流れが伝わるよう整理し、参加前の段階から本事業の趣旨と内容が理解しやすいよう工夫した。

さらに当日は、東京スタジオを中心に山梨、高知、千葉など各地をオンラインで接続し、地域を越えた実践交流の場として実施したこと自体が、本事業の理念を可視化する広報的な意味を持った。これにより、従来からの支援者・関係者に加え、介護、障害福祉、地域共生、多世代交流等に関心を持つ新たな層に対しても、本事業の意義と活動内容を広く発信することができた。

■ 今後の展開

第10回の節目を単なる記念開催に終わらせることなく、これまで培ってきたネットワークを基盤として、地域や立場を越えた実践者同士の交流をさらに深めていきたい。今回共有された、認知症の人の就労や役割づくり、障害のある人を含む多様な働き方、学生による継続的な地域連携の実践は、いずれも地域共生社会の具体像を示すものであり、今後の事業展開においても重要な示唆となる。

オンライン開催の利点を活かしつつ、必要に応じて対面での交流や現地発信も視野に入れ、参加し